

活動報告書

今月の主な活動

2月は以前チラシを作成したニット展が製糸場で開催されました。イベント当日ニット王子・広瀬先生のトークに集まった人数にも驚きましたが、予約しておらず会場に入れず外で待っていた方もいたそうです。正直、シルクでニットを編む層がそんなに熱く存在するとは知りませんでした。

連休中に撮影のために会場を訪れると更に熱心にコンテストのために審査している来場者が山ほどいて、投票用紙が足りなくなるほどでした。



そして今月は名古屋商科大学大学院の澤谷教授から繊維学部のある信州大学と交流してみてもどうかとご助言をいただき、シルク機構の長谷川さんと信州大学学部長で繭の研究をされている森川教授の面談をセットすることができました。富岡シルクの構想に協力的な話をしていただき、自分達だけではどうやったら出来るのかとぼんやりイメージしていたものが教授との繋がりで実現できそうなことも広がり、今後の大きな展開に期待できるのではないかと考えています。写真は信州大学内にある繭の記念館で、実際に繭の毛羽をつかった製作ができるスペースなどもあり、繭に触れるいい環境が出来ていてこんなスペースが富岡にもあればなと夢のある見学になりました。



今月の探索

冬は養蚕農家のオフシーズンなので世の中に目を向けて、シルクを一部でも使っている製品や文献などを意識的に調べていると、稲荷神社には五穀豊穡と共に繭の豊作を祈る風習があり、何百年も前も繭を額に入れて奉られていたと知りました。やはり農業が中心だった時代は食物以外に養蚕も重要な生産品で関わっている人が非常に多かったのだと日本の歴史を改めて学びました。

